

梅鶯仏教壮年会報

第88号
2011年
5月15日

5月例会

期日：5月29日（日）

夜7時～8時半

プログラム

お勤め

法話

『正信偈を味わう⑬』
放談会（気楽に雑談）
仏教讃歌斉唱

さびしいとき

私がさびしいときに、
よその人は知らないの。

私がさびしいときに、
お友だちは笑うの。

私がさびしいときに、
お母さんはやさしいの。

私がさびしいときに、
仏さまはさびしいの。

金子みすゞ

ミャンマー（旧ビルマ）

の仏跡を訪ねて⑧

副会長 森 勝昭

3月2日（五日目）

気温 35°

6時起床 7時朝食 8時30

分出發。

この日ははじめてのんびりした

朝だった。

聖なるシュエダゴンパコダに参

拝する。

バスの中から裸足、これも慣れ

てきたのかなんとなく気持ちがい

いものだ。少しは信心が深まった

のか？

2500年前に建てられたこの

仏塔に釈迦の聖髪が安置されてい

ると言われています。

時代が変わってもビルマの人々

は釈迦への感謝の気持ちを込めて

国も、一

般市民も

そんな

裕福とは

思えない

のに、仏



像・仏塔に対
して様々な高
価な物をお布
施、寄付をさ
れている。

信仰心の深

さにこやか

な笑顔、素朴

な人間性が伝

わってきます。

さすが仏教

国だと感じしました。

太平洋戦争ではここビルマで、

約19万人の日本人の方が亡くな

っております。

日本人墓地が1999年に完成

しまして、日本政府が建立した碑

があります。皆でお勤めをしまし

た。

遠く離れた国を思い又家族を思

い戦死された方々の気持ちを察す

るにっらい一時でした。

また、このツアーの中に兄がビ

ルマ戦線で亡くなられたという方

がおられました。会えて感激の涙

涙・・・みんなもらい泣き、他

の人もどこかの国で親や兄弟が戦

死された方がありました。つづく



前号からのつづき

インドで人生を4つの時期に分けて言い表す言葉、
 「**学生**（がくしやう）期」
 「**家住**（かじゆう）期」
 「**林住**（りんじゆう）期」
 「**遊行**（ゆぎやう）期」
 その最後の「遊行期」、遊び行く時期とは一体どういう意味なのでしょうか？
 ○**旅の楽しさとは**
 実はこの時期こそが大事なのだと作家の五木さんは仰います。
 旅行を思い返してみて下さい。
 旅行の楽しさは、一切の生活から解放され、自分の行きたいところへ行けるというところにあります。
 けれども、旅行が本当に楽しいのは、はたしてそれだけでしょうか？
 実は旅行が本当に楽しいのは、「帰る家がある」からなのです。
 「帰って来いよ」と待っていて下さる人が有るからです。
 そ樂しめるのです。



帰る家もなく、待つ人もいない旅は「放浪の旅」といいいます。
 「帰る家」「待つ人」があるからこそ、楽しい「旅行」なのです。
 ○**人生の本当の意味**
 人生の終盤に迎える「遊行」という時期は、この私たちが人生の行き着く先、帰りが人生の行き着く先、待つてくる人を目当てとして、安心の中で過ごさせて頂く時期。
 だからもつとも大事な時期なのだと、インドの人は考えたのです。
 たとえ年老い、病に伏せども、人生のしがらみから解き放たれ、新しく生まれ往く先を、確かなものにしないで、自由奔放な精神性の中で過ごさせて頂く人生最後の時期。
 この意味がなければ、人生はなんの意味も無いと考えるのです。
 「まっっているぞよ」「帰って来いよ」と呼ぶが続けて下さる親がいます。だから楽しいのです。だから安心してできるので



す。このように振り返ると、インドで示される4つの人生の時期は、単に人生が4つの時期に区切られていて、そのではないことに気づきます。す。

「学生期」は「家住期」を迎えるためのもの。

「家住期」は「林住期」を迎えるためのもの。

そして「学生期」も「家住期」も「林住期」も、実は「遊行期」を迎えるため、にあるのだと説くのです。

○わが親に出会う

それだけが、4つ時期はあるけれども、「遊行期」があるけれども、「遊行期」こそが、人生の最終目標で最も尊く大切な時期なのだ。そして念仏者の人生に照らし合わせると、「若い頃に一生懸命勉強した」ことも、「家族や社会のために一生懸命働いた」そのことを自然の中でのちのちを感じられるようになった」そのこ



とも。
実は、みんな大事な大事な阿弥陀様の呼び声を聞かせて頂くためのものだったのです。
この味わいこそが大切なのでしょうか。
もちろん人生は、そんなに順調なばかりではありません。
このことはこの度の大震災でも思い知らされています。
若くして、この娑婆と別れなければならぬ人も沢山います。
また同時に、いくら年を重ねても仏法に巡り会えずに、縁の遠い人もおられます。
そんな中で、私達はこれまで人間としての命を頂戴し、聞き難し仏法を今聞かさせて頂いている。
これは大変な恵みであるとともに、大きなお育てでもあることを、改めて悦ばせて頂きたいと思っております。



梅鶯仏壯総会

住職法話より